

令和6年度 後期学校評価 自己評価書

鬼北町立泉小学校 令和6年12月

【評価基準】 A:目標を達成 B:75%以上達成 C:60%以上達成 D:60%未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評価	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						担当者
		評価指標	目標値					4	3	2	1	指数	全体平均	
1	生徒指導の徹底	① 基本的な生活習慣(気持ちのよい挨拶)は、適切に指導され、身に付いてきている。	児童、保護者、教職員、学校運営協議会委員における指数85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して4ポイントも減少した項目で、特に児童の評価が落ちているのが特徴である。挨拶運動については、児童会を中心に推進を強化した。反面、挨拶の目標達成レベルが児童の中で上がっている可能性がある。できているところはしっかりと奨励することも必要と考える。また、保護者からの意見に児童の言葉遣いの荒さについて心配の声が上がった。挨拶を含め、言語環境についても気を付ける必要がある。 【改善方策】 ①頑張っている児童を教師が見取り、奨励する。 ②言葉遣いについては、教師も含め振り返る機会を持ち、相手を大切にすることを醸成を図る。	児童アンケート(7つのやくそく)	B	50	32	16	3	82	85	生徒指導主事
		② 教育相談や教育相談的対応に取り組み、児童理解とコミュニケーションが深化した。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して2ポイント上昇した。児童、保護者、教職員ともに指数の上昇が見られる。毎月の学校生活に関するアンケートの実施やSSWとの連携、全教職員が教育相談にあたる機会の設定など、教育相談の機会を多く設定したことによる成果と思われる。しかし、否定的な評価をしている児童もいるので、個別に支援をする必要がある。 【改善方策】 ①学級担任による定期的な教育相談の実施、SSWによる教育相談の充実を今後も継続し、児童全員が、教職員と相談できる機会を設定する。	児童アンケート	B	50	34	11	5	82		
	① 教科体育・体育的行事の指導が充実し、体力向上に役立った。	児童、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して2ポイント上昇した。教科体育の時間が適正に取られ、計画的に学習を進めたことが成果として表れた。また、児童会を中心とした全校遊びを通して、屋外活動をする機会が増えたこともよかった。 【改善方策】 ①今後も教務主任による教科時数の適正な取得計画に沿って、教科体育を進める。 ②児童会を中心として、今後も全校遊びを行い屋外での活動をする機会をとる。	児童アンケート	B	50	34	11	5	82			
② 適切な給食指導や保健指導及び交通指導等を実践し、校内外における健康・安全の確保に努めている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】 全体平均は前期と同等のポイントを示した。児童の歯磨きや洗顔に関する指標がやや下がったものの、他の項目については改善が見られた。給食指導について、偏食をする児童がいて、時間内に給食を食べることができない様子が見られる。 【改善方策】 ①朝の会で歯磨き・洗顔・朝食の確認をし、児童へ啓発する。 ②給食の量については、時間内に食べられる量を個別に対応する。 ③食の大切さを児童へ啓発し、少しでも偏食を解消する工夫を行う。	児童アンケート(登下校の安全)	A	74	24	0	3	92				
豊かな心と健やかな体の育成	健康安全教育の推進	① 教科体育・体育的行事の指導が充実し、体力向上に役立った。	児童、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して2ポイント上昇した。教科体育の時間が適正に取られ、計画的に学習を進めたことが成果として表れた。また、児童会を中心とした全校遊びを通して、屋外活動をする機会が増えたこともよかった。 【改善方策】 ①今後も教務主任による教科時数の適正な取得計画に沿って、教科体育を進める。 ②児童会を中心として、今後も全校遊びを行い屋外での活動をする機会をとる。	児童アンケート	A	76	21	3	0	93	97	生徒指導主事
		② 適切な給食指導や保健指導及び交通指導等を実践し、校内外における健康・安全の確保に努めている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】 全体平均は前期と同等のポイントを示した。児童の歯磨きや洗顔に関する指標がやや下がったものの、他の項目については改善が見られた。給食指導について、偏食をする児童がいて、時間内に給食を食べることができない様子が見られる。 【改善方策】 ①朝の会で歯磨き・洗顔・朝食の確認をし、児童へ啓発する。 ②給食の量については、時間内に食べられる量を個別に対応する。 ③食の大切さを児童へ啓発し、少しでも偏食を解消する工夫を行う。	児童アンケート	A	76	21	3	0	93		
特別支援教育・人権教育・道徳教育の推進	特別支援教育・人権教育・道徳教育の推進	① 生活班活動や児童会活動、学校行事等を通じて友達と協力して物事をやり遂げたり高め合ったりする心を育てている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】 全体平均は前期と比較して1ポイント上昇した。児童会を中心として、全校遊び等生活班で活動する機会が随分と増えたことが影響している。児童も全校遊びを楽しみにしている様子が見られるので、こうした活動を通して友達と協力する心情を育むことができることを期待している。 【改善方策】 ①高学年がリーダーとして活躍できる場、児童一人ひとりが認められ活躍できる場を盛り込んだ活動を継続していく。	児童アンケート	A	66	32	0	3	90	92	生徒指導主事
		② 適切な給食指導や保健指導及び交通指導等を実践し、校内外における健康・安全の確保に努めている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】 全体平均は前期と同等のポイントを示した。児童の歯磨きや洗顔に関する指標がやや下がったものの、他の項目については改善が見られた。給食指導について、偏食をする児童がいて、時間内に給食を食べることができない様子が見られる。 【改善方策】 ①朝の会で歯磨き・洗顔・朝食の確認をし、児童へ啓発する。 ②給食の量については、時間内に食べられる量を個別に対応する。 ③食の大切さを児童へ啓発し、少しでも偏食を解消する工夫を行う。	児童アンケート(歯磨き、洗顔、朝食)	A	79	18	0	3	93		
③ 食の大切さを児童へ啓発し、少しでも偏食を解消する工夫を行う。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】 全体平均は前期と同等のポイントを示した。児童の歯磨きや洗顔に関する指標がやや下がったものの、他の項目については改善が見られた。給食指導について、偏食をする児童がいて、時間内に給食を食べることができない様子が見られる。 【改善方策】 ①朝の会で歯磨き・洗顔・朝食の確認をし、児童へ啓発する。 ②給食の量については、時間内に食べられる量を個別に対応する。 ③食の大切さを児童へ啓発し、少しでも偏食を解消する工夫を行う。	保護者アンケート(保健指導・交通指導)	A	61	39	0	0	90				
						保護者アンケート(生命尊重)	A	61	39	0	0	90		
						教職員アンケート	A	75	25	0	0	94		
						児童アンケート	A	66	32	0	3	90		
						保護者アンケート	A	61	35	4	0	89		
						教職員アンケート	A	88	13	0	0	97		

※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。

※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。

※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。

※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。

令和6年度 後期学校評価 自己評価書

鬼北町立泉小学校

令和6年12月

【評価基準】 A:目標を達成 B:75%以上達成 C:60%以上達成 D:60%未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評価	学校による考察・改善方針	評価資料	評定	アンケート結果(%)						担当者	
		評価指標	目標値					4	3	2	1	指数	全体平均		
2	学力の向上	① 目標と指導と評価の一体化を目指し、ねらいを明確にした授業を展開している。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数	85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して1ポイント上昇した。しかし、保護者の指数が低下した。ねらいの提示、振り返りの場の設定を確実にしているが、保護者へはなかなか伝わらない状況が見られる。ノート指導や参観日等で、ねらいを明確にした授業が展開されていることを啓発する場がある。	児童アンケート	A	61	40	0	0	90	90	学力向上推進主任
			保護者アンケート	B			37	53	11	0	82				
	教職員アンケート	A	88	13	0	0	97								
	【改善方針】 ①ねらいの提示、振り返りの場の設定を確実にすること。今後継続する。 ②ノート指導に気を配り、保護者がノートを見て、学習がきちんと進んでいることが確認できるようにする。						※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。								
		② 自分の考えをまとめたり、表現したりする活動を大切に授業を展開している。	教職員アンケートにおける指数	90%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して7ポイントも上昇した。前期の学校評価の反省を踏まえ、全教職員が改善を図ってきた成果が表れている。学校行事や児童会活動の振り返りでは、全校の前で堂々と意見を述べる児童が増えてきており、目に見えて成果が表れている。	教職員アンケート	A	71	29	0	0	93	93	学力向上推進主任
【改善方針】 ①自分の考え及び感想を発表する場や、短作文等を通じた書く場を、今後も継続的に設定する。															
	基礎・基本の定着	① 「学びの約束」を指導し、学習規律の確立に努めている。	児童、教職員アンケートにおける指数	85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して3ポイント減少した。教職員アンケートの指数が下がった影響が出ているが、全員肯定的な評価をしているので、あまり問題にはならないと考える。各学級で、学びの約束が守れている内容と、守れていない内容を整理し、各学級で取り組むべき項目を重点化することもよいと考える。	児童アンケート	B	50	32	11	8	81	85	学力向上推進主任
教職員アンケート			A	57	43	0	0	89							
【改善方針】 ①学びの約束の項目の中で、できている項目、できていない項目を整理し、重点化を図る。						※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。									
		② 漢字の読み書きや計算の定着を目指し、ipad等で繰り返し指導している。	保護者、教職員アンケートにおける指数	85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して1ポイント上昇した。これまでの取組について肯定的に受け止められていると考えられる。タブレットを活用した個に応じた学習環境も整っているため、児童のニーズに応じた取組を継続することが期待される。	保護者アンケート	A	52	43	5	0	87	90	学力向上推進主任
教職員アンケート	A	71	29	0	0	93									
【改善方針】 ①デジタルとアナログの課題のバランスを取り、これからの時代に合った学習方法を身に付けさせる。															
	家庭学習の定着	① 家庭学習の各学年の目標時間が達成できるよう指導や啓発に努めている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数	85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して1ポイント上昇した。教職員の指数が随分と向上した。前期の学校評価の反省を生かし、家庭学習の時間に焦点を当て、しっかりと家庭学習の習慣を身に付けさせる実践を行ってきたことがうかがえる。しかし、保護者の意見の中には、タブレットでの宿題と従来のプリントでの宿題の量について、差が大きいという意見があった。タブレットを操作する技能にも個人差が見られることから、デジタルとアナログの課題のバランスについては考慮する必要がある。	児童アンケート	A	66	18	8	8	86	88	学力向上推進主任
保護者アンケート	B	36	50	14	0	81									
教職員アンケート	A	86	14	0	0	96									
【改善方針】 ①家庭学習の時間がしっかりと確保できるようにデジタルとアナログのバランスの取れた課題を提示し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。															
	読書活動の推進	① 読書到達目標の達成に向けて、読書指導を行っている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数	85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して5ポイント上昇した。図書委員会を中心に様々なイベントを企画し、児童が積極的に本に触れる機会を増やしたことが大きい。ただし、教職員の意見の中に、図書室に行く機会は増えたが、じっくりと本を読み、本の世界に浸ることができていない児童がいるように感じるという意見があった。本を読む楽しさを味わわせる機会の設定も必要と感じる。	児童アンケート	A	84	11	5	0	95	93	学力向上推進主任
教職員アンケート	A	63	38	0	0	91									
【改善方針】 ①たかのすタイムを活用しながら、じっくりと落ち着いて読書をする時間を設定し、本を読む楽しさを味わう機会を持たせる。						※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。									

令和6年度 後期学校評価 自己評価書

鬼北町立泉小学校 令和6年12月

【評価基準】		A:目標を達成 B:75%以上達成 C:60%以上達成 D:60%未満の達成		4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない															
項目	重点目標	評価指標及び目標値		評価	学校による考察・改善方針	評価資料	評定	アンケート結果(%)						担当者					
		評価指標	目標値					4	3	2	1	指数	全体平均						
3	家庭・地域との連携	① 通信や配付文書、家庭訪問・懇談会・電話連絡等による情報提供が行われている。	児童、保護者、教職員、学校運営協議会委員における指数	85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と同等のポイントを示した。地域の方から、学校ホームページの更新が頻繁に行われており、学校の様子がよく伝わるという意見をいただいている。また、保護者への配付文書をデジタルに移行したことにより、教員の負担軽減とともに確実な配付が実現できた。 【改善方針】 ①今後も、様々な情報伝達手段を利用しての情報発信を行いながら、家庭・地域との連携を図っていく。 ②学校ホームページの更新については、毎日更新されている。今後も継続し、タイムリーな情報を発信する。	児童アンケート	A	68	18	5	8	87	93	教頭 ◎教務				
			保護者アンケート	A			67	33	0	0	92								
教職員アンケート	A	88	13	0	0	97													
地域有識者アンケート	A	88	13	0	0	97													
						※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。													
3	家庭・地域との連携	② 地域に根ざした教育活動やPTA活動を通して、保護者や地域、関係機関との連携が深まった。	児童、保護者、教職員、学校運営協議会委員における指数	85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して2ポイント上昇した。児童の指数はやや下がったものの、保護者、教職員、地域有識者の指数は増加した。特に、鬼北文楽の保存に関して、学校が大きな貢献を果たしていることを学習発表会等で地域に発信できた。今年度より総合的な学習に時間における鬼北文楽の内容を改編し、高学年が全員鬼北文楽に関わることができるようにした。このことも、地域から肯定的に受け止められたように感じる。 【改善方針】 ①PTAや公民館と情報を共有し、連絡を取り合いながら適切に教育活動を展開していく。 ②地域の人材や教材の整理をし、年間計画と関連させる。	児童アンケート	A	66	26	5	3	89	94	教頭 ◎教務				
			保護者アンケート	A			73	27	0	0	93								
教職員アンケート	A	88	13	0	0	97													
地域有識者アンケート	A	88	13	0	0	97													
						※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。													
4	教職員の資質・能力的向上	① 効果的な校内研修が実施され、資質・能力の向上や自己研修に役立った。	教職員アンケートにおける指数	90%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して3ポイント上昇した。研修主任の提示した研修計画が年間を通してしっかりと実施できている。今年度は、NIE教育の指定を受けているので、教職員の研修への取組が前向きに感じられる。 【改善方針】 ①全教職員が、NIE教育の充実に向けた研修に取り組む。	教職員アンケート	A	100	0	0	0	100	100	◎教頭 ◎教務				
			② 連絡・報告・相談の徹底を図り、服務規律を厳守している。	教職員アンケートにおける指数			90%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して3ポイント上昇した。教職員が互いにコミュニケーションを図りながら、明るい職場づくりの推進が図られている。 【改善方針】 ①今後も連絡・報告・相談を徹底し、全教職員が共通理解を図りながら、気持ちよく働くことのできる職場を目指す。	教職員アンケート	A	100	0	0		0	100	100	◎教頭 ◎教務
			③ 適切な人的管理と物的管理が行われ、生命を尊重する環境づくりに努めている。	教職員、学校運営協議会委員における指数			85%以上			A	【考察】 全体平均が前期と比較して4ポイント上昇した。学校のバラ園は、校長や校務員が中心となって整備をしている。また、学校施設や備品の管理も毎月厳しくチェックし、教育委員会と相談しながら、修繕等の対応を早期に図ることができている。 【改善方針】 ①管理職が各担当教員との相談を密に取り、適切な人的管理と物的管理が行われるよう、情報を集約する。	教職員アンケート	A	100		0	0	0	
地域有識者アンケート	A	75	25	0	0	94													
学校運営協議会委員の所見		○挨拶運動にしっかりと取り組んでいることが分かった。元氣よく大きな声で挨拶するのもよいが、声が控えめでも明るくさわやかに挨拶してくれるだけで十分である。児童にも伝えてほしい。 ○放課後子ども教室での学習の様子を見ていると、3年生以上の学習態度がよくなっている。その上で、家庭学習の時間の確保ができていないと児童が評価している様子を見ると、しっかりと自分のことを見つめ、振り返りができているという成長の証と捉えることができる。そのことを児童に伝えて賞賛してほしい。 ○精神的に体調を崩す教職員がいないことを聞き安心した。今後も、温かい雰囲気職場づくりに努めてほしい。 ○教職員アンケートの項目を見ると、100%の指数を示しているところがいっつも見られる。このことから、学校全体がまとまって、業務にあたっていることがうかがえる。とてもありがたく感じる。				学校の対応		●保護者の意見の中にもあった子供たちの言葉遣いについては、教師も含め振り返る機会を持ち、相手を大切にすることを意識させる。 ●挨拶については、今後も励行し、できている子供をしっかりと賞揚する。 ●家庭学習の量については、学年に合った量を調整する。また、デジタルとアナログのバランスの取れた課題を提示し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ●異学年での交流が活発に行われている。児童会を中心に、この流れを絶やさずと継続する。 ●今年度より、家庭への連絡文書をデジタルで配信する方法をとった。今後も、様々な情報伝達手段を利用しての情報発信を行いながら、家庭・地域との連携を図っていく。						◎教頭 ◎教務					